

富士市SDGsの課題と取り組み



11 住み続けられるまちづくりを



目標 11

都市を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする

富士市の課題

富士市で特に重要な課題は、一番目に災害に強いまちをどう作るか、次に自動車に依存しなくても移動できるまちをどう作るかということではないでしょうか。まず、災害に強いまちづくりについて、富士山を背に、眼下には駿河湾を望む恵まれた都市である一方、南海トラフ地震発生の際は、噴火の発生や津波の襲来などの災害リスクがあるので、ハード・ソフト対策を組み合わせ、災害に強いまちを作っていく必要があります。次に自動車に依存しないまちづくりについて、現在、市民の生活における移動手段を自動車に依存する都市構造になっているので、自動車を使えない市民や来訪者（例えば、子どもたちや高齢者）でも移動が不自由なくスムーズであること、交通事故がない安全・安心な社会であることを実現するためには、公共交通の充実が必要です。

富士市には、富士山の恵みによる自然環境があります。加えて、東海道やかぐや姫伝説など、歴史文化にちなんだ史跡もあります。人々が住み続けられるまちであるために、自然にやさしい、文化的で快適なまちを目指す必要もあると思います。災害などに強く回復力がある都市であること、都市から排除されず、あらゆる人やものを包み込む都市であること、これらのことをしっかり考え、対応する都市づくりをしてほしいと考えます。



市民の足として富士市東部を走る岳南電車



富士駅北口周辺地区再整備のイメージ図

富士市の取り組み

実は富士市は、国連でSDGsが採択されるよりも前にSDGsの概念を取り入れているSDGs先進都市です。私が市民会議の会長として策定に携わった「富士市都市計画マスタープラン」は、「富士山のふもと 誰もが住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり」を基本理念とし、「持続可能なまちづくり」を富士市のまちづくりの方向性として掲げ、社会・経済・環境の3側面を意識して作られています。国連の採択は2015(平成27)年ですが、富士市都市計画マスタープランは2014(平成26)年に策定されています。また、公共交通の問題についても、全国に先駆けて公共交通協議会を立ち上げ、積極的な対策が行われています。今後、着実に持続可能な都市を形成し

ていくためには、SDGsの理念を市民の皆さんが理解し、意識し、行動することが必要になります。加えて、これまでの既存の方法や取り組みにとらわれず、新しい方法・手段を積極的に取り入れることも必要です。そのためにもICTなどを活用・導入し、便利で市民の幸福度が上がるスマートシティを目指してほしいと思います。

富士市SDGsポータルサイトでもっと詳しく掲載中



南山大学総合政策学部 教授

石川 良文

環境保全と地域経済の振興の両立を目指す「持続可能な地域」を専門に研究しています。過去に富士市都市計画マスタープラン市民会議会長、第六次富士市総合計画審議会会長を歴任し、現在は富士市都市計画マスタープラン策定等市民懇話会座長、富士市公共交通協議会副会長を務めています。



富士山とともに 輝く未来を拓くまち
SDGs 未来都市 富士市

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS